

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：21301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K11004

研究課題名(和文) 特別養護老人ホームにおけるWBT併用ケア管理教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a Care Management Education Program with WBT in a Special Nursing Home

研究代表者

沢田 淳子 (Sawada, Atsuko)

宮城大学・看護学群・准教授

研究者番号：20621444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：特養の看護管理者を対象に、メンタリング学習支援を含むオンラインでの特養ケア管理教育システムを開発しプログラムを展開した。2021年11月から8回の研修を実施しその過程でプロセス評価を行った。また、8カ月間にわたり、参加者は自施設のケアマネジメント課題に取り組み、中間発表と最終発表を実施した。アウトカム評価として、プログラム開始前、途中、終了後にケアマネジメント能力の評価を行い、研修参加者の施設の同僚等にケア管理者のケア管理能力についての調査を実施した。これまでの結果から、各研修プログラムに対する参加者の満足度は高く、学びのアウトプットとして自施設での取り組みが効果的に実施されたと評価できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「特養における看護職であるケア管理者のケア管理能力自己評価票」の7のケア管理能力42項目全体の平均点は、研修前後で上昇しており、特に「見取りの体制を整備する能力は」有意な上昇がみられた。また、同僚等への調査では、研修参加前と比較して研修参加者のケア管理能力は全項目で肯定的な回答が多数を占め、全く良くなっていないはみられなかった。これらより、7能力42項目を用いた研修および自己のケア管理課題に取り組む本プログラムはケア管理能力を向上させる方法としての意義を持つ。また、オンラインでの実施は距離や時間を問わないため、より多くの地域の特養ケア管理者を対象とできる点で社会への貢献も大きいと考える。

研究成果の概要(英文)：An online care management education program, including learning support through mentoring, was developed for nursing managers in special care facilities. 8 training sessions were conducted, and satisfaction and learning content were evaluated during the process. Over the course of eight months, participants also worked on care management issues at their own facilities and made interim and final presentations. As outcome evaluations, care management skills were assessed before, during, and after the program, and a survey of care management skills of care managers was administered to colleagues and others at the training participants' facilities. Based on the results to date, we can evaluate that participants' satisfaction with each training program was high and that the initiatives were effectively implemented at their own facilities as an output of their learning.

研究分野：老年看護

キーワード：特別養護老人ホーム 看護管理者 ケア管理能力 教育プログラム オンライン研修

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまでに、特別養護老人ホーム（以下、特養）の看護職であるケア管理者（以下、看護ケア管理者とする）に求められる7のケア管理能力と42項目からなる自己評価票を開発した¹⁾。また、これらを活用して、B県看護協会における特養の看護ケア管理者を対象に、ケア管理能力の内容の理解を目的とした研修を実施した。また、地域の特養看護ケア管理者を対象に、自己評価しつつ確実にケア管理能力を修得できるよう段階的・継続的に約半年の学習会を実施した。その結果、参加者による主観的評価は好評であったが、随時かつ長期的なサポートの必要性、集合研修会への参加困難な状況がある中で、時間の有効活用と意欲の維持・向上が課題となった。加えて、コロナ禍において厳重な感染予防対策が必要な特養において、人との接触を可能な限り回避する生活様式が必要となった。以上より、これまでの研修会の在り方に、オンデマンドおよび同時双方向型でのオンラインを活用した講義や自己評価、課題の提出、メンバー間の討議、さらに、学習者の学習活動の維持・促進に向けた呼びかけや激励などを行うメンタリング学習者支援を取り入れ、参加者のモチベーションの維持を可能にする Web-Based Training(以下、WBT)教育プログラムを開発する。

また、教育プログラムへの参加者予定者は、実際にケア管理を日々行っている看護管理者であり、教育プログラムには日常のケア管理に即した内容が求められる。加えて、学びを深め実践に活用していくためにも、より主体的に参加できるプログラムが必要であり、このような参加者の特徴を生かすために、アンドラゴジーの原理を活用したプログラムを構成する。参加者の探求のための資源とサポートの提供²⁾が行えるような研修会の内容・方法、Webでの環境づくりを考え、本プログラム専用のオンラインシステムとして、特養ケア管理教育システム（learning share system for care management capability of special elderly nursing home:以下、SSCと略す）を開発する。そしてそれを活用することで、講義を一方的に受けるだけでなく、調べる、発表する、意見を交換する、「特養における看護職であるケア管理者のケア管理能力自己評価票（以下、自己評価票）」を用いて自身の課題を明確にして、課題への取り組みを実施し評価するという、参加者の学びを支援する WBT 併用教育プログラム（以下、教育プログラムとする）の開発を目指した。

2. 研究の目的

本研究は、「自己評価票」を用いて、特養の看護ケア管理者を対象とした Web を活用した講義・グループワークとメンタリング学習支援を含む WBT 教育プログラムの実施・評価を目的とする。

3. 研究の方法

縦断的前後比較による介入評価研究

(1) SSC の開発

医療・看護の評価システム開発経験の豊富なシステム制作会社の SE や研究者が、1年を

かけて機能や操作性など工夫してプレテストを繰り返し、PC 操作に不慣れでも使用しやすい SSC を開発した。研修参加者はユーザーID が付与され、ID とパスワードでログインし、自己評価の入力や意見を述べるができる。また、自己評価についてのアドバイスを受けたり、学習会の情報を得たり、意見一覧から他参加者の意見などを確認することができる。

(2) 研修概要

研修の全体像は表 1 の通り。

研修参加者：A 県の全特養 199 施設のうち本研究への同意が得られた看護ケア管理者

研修期間：令和 3 年 11 月より令和 5 年 2 月

研修方法・内容：

- イ．全てオンラインを活用した同時双方向性の研修会
- ロ．全 8 回の研修（中間報告会および成果発表会の実施を含む）中に 10 か月間の施設での自己のケア管理課題への取り組みの実施
- ハ．内容は表 1 の通りであり、「特養における看護職であるケア管理者のケア管理能力自己評価票（以下、ケア管理自己評価票）」を基盤とした内容
- ニ．研修期間中、研究者からの定期的なメンタリング学習支援の実施
- ホ．SSC を活用したプロセス評価、アウトカム評価の実施

なお、グループワーク等の学習効果に鑑みて対象者を 2 分割し、同じ内容を 2 回ずつ研修した。

(3) データおよびデータ収集方法

プロセス評価

- ・各研修後に、メールおよび SSC を活用して、研修会の満足度とその理由、研修で学びの内容、感想・希望等の調査
- ・全研修終了後に、SSC の活用度、ケア管理上の取り組み目標の達成度、自己評価得点の変化について印象・理由、教育プログラムへの満足度とその理由、研修の役立ち度、時間（ボリューム）、方法、希望・提案、その他の調査

アウトカム評価

- ・「ケア管理自己評価表」を使用して、プログラム実施前、中、後にケア管理能力について調査
- ・研修参加者の施設の同僚等へ、研修前後での看護ケア管理者のケア管理能力について、質問紙による比較調査

(4) 分析方法

統計処理は SPSS Statistics Ver29 を使用した。自己評価票の得点について、プログラム前・中・後の 3 時点の反復測定分散分析を行い、多重比較は Holm の方法を用いた。質的記述的分析は、データおよび分析結果の真実性を保つために、研究者間で検討を行った。

プロセス評価

SSC の活用度、研修の満足度、理解度については記述統計を行い、満足度合いの理

由、研修において理解した内容、達成度について、質的記述的分析を実施している。

アウトカム評価

〔ケア管理能力自己評価〕の得点について、研修前・中・後の3時点について反復測定分散分析により比較を行い、同僚等への質問紙による評価について、記述統計および質的記述的分析を実施している。

4. 研究成果

教育プログラム概要と各研修会の日程・内容									
教育プログラムの狙い ：看護ケア管理者は、特養におけるケア管理（以下、ケア管理とする）能力を理解して活用することや参加メンバーとのつながりの中で、特養の利用者・家族、在宅療養生活中のショートステイやデイサービスの利用者・家族へのより良い支援について考え、実践し、ひいては地域包括ケアシステムの充実に貢献することができる									
教育プログラムの目標 ： 【SSCの活用に関して】ケア管理者は、SSCを活用して群内のメンバーや研究者と意見交換などを行うことができる、SSCを活用して自己のケア管理能力を評価することができる、SSCを活用して、他者の意見を参考にすることができる 【知識・技術・態度に関して】ケア管理者は、積極的に研修に参加できる（事前課題の実施、SSCの活用）、効果的なケア管理に必要な要素について述べることができる、ケア管理を行う中で自身の強みについて述べるができる、ケア管理上の自身の課題を明らかにできる、ケア管理上の自身の課題の達成に取り組むことができる、ケア管理上の課題への取り組みについて評価し発表できる、教育プログラム終了後、今後の自身の抱負（目標）を述べることができる、自施設の専門職からのケア管理に関する肯定的な評価を受けることができる 【満足度に関して】ケア管理者は、教育プログラムへの参加に満足する、知り合いのケア管理者にも勧めたいと思う									
	研修前	第1回研修会	第2回研修会	第3回研修会	第4回研修会	第5回研修会	第6回研修会	課題取り組み中	第8回研修会
日時		R3 11月1日（月） 11月4日（木）	12月6日（月） 12月2日（木）	R4 1月17日（月） 1月6日（木）	2月7日（月） 2月3日（木）	3月7日（月） 3月3日（木）	4月11日（月） 4月14日（木）	9月第7回研修会 （中間報告会）	R5 2月6日（月） 2月2日（木）
テーマ		情報管理、ケア 管理能力について	リスク管理、暮 らしの継続について	最後の看取り、 倫理的感受性 について	自己研鑽、リフ ラクションについて	マネジメントに ついて	自己の課題、取 り組みについて		取り組み内容の 発表、まとめ
メンタリング 学習支援	メール、 SSCにて 研修前後 に実施								
評価	プロセス評価		研修会終了後に SSCを活用して振 り返りシートへの入 力から以下について 評価する 1. 研修会の満 足度とその理由 2. 研修内容 (学びの内容) 3. 感想・希望				1.2.3.+ 42項目内容理解 度について ・自己評価得点の 変化について印象、 理由 ・研修の役立ち 度、時間（ボリューム）、 方法、希望・ 提案、その他		1)SSCの活用度 2)ケア管理上の取 組み目標の達成度 3)自己評価得点の 変化について印象、 理由 4)教育プログラムへ の満足度とその理由 5)研修の役立ち 度、時間（ボリューム）、 方法、希望・ 提案、その他
	アウトカム評価	・ケア管理 自己評価 42項目					6回研修終了後〔ケ ア管理能力自己評 価42項目〕		1)8回研修終了後 〔ケア管理能力自己 評価42項目〕 2)同僚等へ、研修 前後でのケア管理者 のケア管理能力の比 較調査を実施

研修参加者は、開始当初は10名であったが、Covid19の感染拡大の影響や人事異動、施設看護職員の退職等による負担増などにより4名が中断となり、最後まで参加できたのは6名であった。

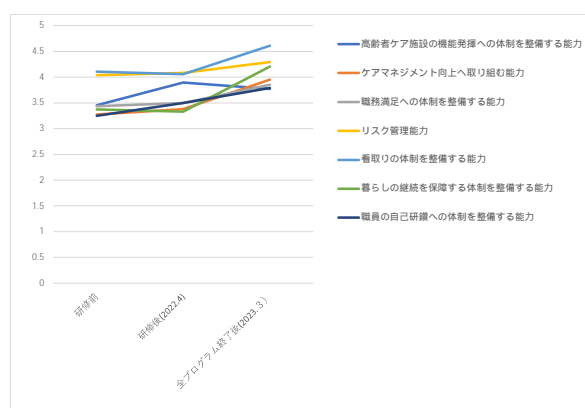
研修方法については、研修参加者それぞれにオンラインのメリット、デメリットがあるものの概ねオンラインでよかったことが確認できた。また、1回90分の研修については、短いやちょうどよいという意見があったが、短いと答えた研修参加者からは、事前課題への取り組みを丁寧に行うことで実際の研修時間が充実するとの意見や1回の研修を2回に分け

た方がよい内容もあるとの意見もあった。1回の研修に2つの内容が入っていることについては、分割することを考える必要がある。自施設での取り組みを含め1年3か月の期間については、概ね肯定的な意見がきかれた。

自己のケア管理に対する課題への自施設での取り組みについては、研修会で自己の課題内容・方法について共有、洗練したことや、取り組み期間中に中間報告の場があり、共有や肯定的フィードバックが意欲継続につながったことが研修参加者の評価としてみられた。

アウトカム評価として、「ケア管理自己評価票」全体の平均点はプログラム前後で上昇しており、7のケア管理能力のうち「ケアマネジメント向上に取り組む能力」「個々の入居者の暮らしの継続を保障する能力」「看取りの体制を整備する能力」など5の能力がケア管理課題解決取り組み前後で有意(p値<0.05)に上昇した。得た知識を自施設でのケア管理課題への取組みで実際に活用したことが自己評価を高めた可能性がある。プログラムへの評価は全体に良好であるが更なる構成の工夫が必要である。

研修参加者の施設の同僚等への調査では、研修参加者ごとに39名の同僚等からの調査協力があり、研修参加前と比較して研修参加者のケア管理能力はすべての項目で「1.とても良くなっている」「2.少し良くなっている」の回答が多く、「4.全く良くなっていない」はみられなかった。また、3名の研修参加者に対しては全ての項目で「1.とても良くなっている」との回答もあった。7項目別では、各研修参加者でケア管理への課題が異なっており一概に述べることはできないが「個々の入居者の暮らしの継続を保障する体制を整備する能力」「看取りに向けた体制を整備する能力」の評価が高い傾向にあった。今後さらに詳細な分析が必要である。



研修参加者に対しては全ての項目で「1.とても良くなっている」との回答もあった。7項目別では、各研修参加者でケア管理への課題が異なっており一概に述べることはできないが「個々の入居者の暮らしの継続を保障する体制を整備する能力」「看取りに向けた体制を整備する能力」の評価が高い傾向にあった。今後さらに詳細な分析が必要である。

アウトカム評価に使用した SSC については、研修期間の途中で機能について研究者間ならびに SE と意見交換を行い、活用しやすいように感覚的操作性を向上させる修整などを加えた。研修生からは特に否定的な意見はなかったものの、研究者間ではメールとの連動や維持費を含め継続性の課題が明らかになっており、本研究開始前と比較して現在 LMS が発展しており、既存のシステム利用も含めて検討が必要である。

< 引用文献 >

- 1) 沢田淳子 (2018), 特別養護老人ホームにおける看護職であるケア管理者のケア管理能力自己評価票の開発, 日本老年看護学会, 23 (1), 52 - 64
- 2) マルカム・ノールズ (著) / 堀薫夫、三輪建二 (監訳) (2008), 成人教育の現代的実践 ペタゴジーからアンドラゴジーへ, 鳳書房, P6

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中山 綾子 (nakayama ayako) (50831666)	愛知医科大学・看護学部・助教 (33920)	
研究分担者	小野 幸子 (ono sachio) (70204237)	新潟県立看護大学・看護学部・教授 (23101)	
研究分担者	萩原 潤 (hagihara jun) (90347203)	宮城大学・看護学群・准教授 (21301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関